

コーディネーターとしての事業に対する意見シート

- 事業名： 堆肥くるくる協働塾
- コーディネーター氏名・所属：井田輝門・NPO 法人市民ネットワークすずかのぶどう
- ふりかえり会議開催年月日：平成 17 年 3 月 23 日

1. 協働のプロセスについて意見

平成 15 年度からおこなわれている伊賀県民局の「協働塾」に応募・採択された平成 16 年度事業の1つであり、そのプロセスに意見を述べる必要はないと思われる。

2. 成果についての意見

事業の成果についても実績報告会・中間報告会がおこなわれ検証されている。

3. 課題・改善の整理とまとめ

滋賀県水口町(現在甲賀市)の見学を含め課題の整理・今後の課題も把握され、事業報告としては完結していました。

協働についてお互いの立場の違いを経験され今後の活動に役立つものと信じます。

4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

市民による堆肥化循環システムという大きなテーマだけに、合併問題で市町村との協働までいけなかったのは残念に思います。

桐ヶ丘地域での限定事業であるが地域住民の協力が得られたことに感心すると同時に地域拡大にともなう事業推進のエネルギー・コストを考えると助成金や補助金の獲得を考えなければならない時期にきていると感じました。

可燃ゴミの軽減は行政にとっても重要なテーマではあるが、バイオマスエネルギーや他の手法のなかで費用対効果・温暖化防止の視点・法整備を含め議論され早急に方向を見出さなければならないことと思う。

■ 「堆肥くるくる協働塾」振り返り会議

■ ふりかえり会議開催年月日：平成17年3月23日

■ コーディネーター氏名：脇田智恵

所属：ESD in 三重

1. 協働のプロセスについて意見

生ごみの減量化を目的として、地域住民が家庭から出る生ごみを資源として堆肥化し、地域で循環させるシステムを普及していく事業。NPOと行政だけでなく、企業も巻き込み協働で行ったことに注目したい。企業側はこの事業に以前から関心があり、また、このような取り組みを行政や住民とともにすすめていることは、企業の宣伝になり、イメージアップにもつながると考えたようである。企業側にCSRの視点も加われば、さらに広い地域でこの事業を展開できる可能性もあると感じた。

2. 協働の成果

生ごみの処理に経済的コストがかかり、企業に随分負担をかけたのではないかと心配の声も聞かれたが、企業側は「これまでに例のない面白い実験」として取り組んでおり、負担を感じていなかった。またNPO側は、これまでさまざまなごみ資源の堆肥化に取り組んできており、その中でも最良と思われるこの方法を地域で実施できたことは、大きな自信につながったようである。また、行政に自らの声を反映させることができるという仕組みを知ったことも、今後活動を続けていく上での励みになったようだ。

3. 課題・改善の整理とまとめ

この事業が広がりを見せていけば、さらにコストが増大するに違いない。そのコストはどうするのか。また、堆肥化された生ごみを、誰が責任を持ってどこでどのように処理していくのかも協働を進めていくうえで、検討課題であると思われる。この取り組みには多くの世帯が参加したが、そのほとんどが普段から環境意識の高い世帯だったのではないかと、という関係者の一致した意見も聞かれた。それを今後どのように広がりを持たせ、環境意識のない人の関心を引き、参加してもらうかも課題である。さらに、いくら有効なシステムを導入しても、しっかりした指導を住民にしていかなければ徹底しない。その指導を誰がどのように担うのか、指導方法の改善も必要ではないかという声もあった。

4. 事業全体についての意見・感想

基本的にはごみ処理は市町村行政の担う仕事であるが、今年度は大きな市町村合併が行われるなど、実施にあたりタイミングが少々悪かったようである。協働は、普段から各担当者、関係者との円滑なコミュニケーションがあって成り立つと考えられるので、合併が落ち着いて組織が安定してから、本格的に始動するとのことである。その際、市町村行政がさらに積極的に関わることが望まれる。